

蓄音機など

多楽島出身の福澤 英雄さん

福澤英雄さんは齒舞群島多楽島の出身。齒舞群島では生業としてコンブ漁をしていた方が多く、英雄さんのご両親はコンブ漁で成功し、自宅は立派でふすまを取ると劇場になるくらいに広さだったそうです。

昭和二十年九月二日にソ連軍が多楽島に上陸してきましたが、九月下旬にお父さんの清吉さんの友人に船を引っ張ってもらい、家族と親戚の七名で根室まで脱出してきました。船にはタンスや文机などを積めるだけ積み込んできました。脱出途中でお腹が空くと思っ、おにぎり五十個を作っておひつに入れてきました。が、そのおひつを持っていたおじさんが転んでおにぎりを落としてしまい、お母さんに怒られていたのを覚えてるそうです。



福澤さんの思い出の品々は次のページにて紹介しています。

お父さんは脱出して根室に来てからは何も仕事がなかったそうです。生活のために仕方なくアジの密漁をし、警備に見つかり網を没収ということを繰り返して、これでは駄目だと思い直し、標津町にあった藤野缶詰工場に勤めました。

英雄さんは、お父さんは当時惨めな思いだったのではないかと話されました。

昭和三十一年にお父さんは当時の西村久雄根室支庁長宛てに「悔しくて情けない、とにかく島に戻りたい」と涙ながら手紙を出したようで、その手紙に対してお父さんを慰めるため、根室支庁長から返信がありました。

手紙には「新聞やラジオ等で御承知のとおり、平和条約が締結されたあとでなければ返還されない現況にあるので、今後国民挙げて条約締結の速やかならんことを念願するところ です。島の復帰した場合に備え調書を集めておりますが、あなたのものは既に提出されているから安心してくださ い」とのことが記されており、この手紙は今も大切に保管されています。



蓄音機など（その二）

多楽島出身の福澤 英雄さん

蓄音機



英雄さんの家での宴会の様子
写真右に蓄音機が置かれている

この蓄音機は英雄さんの家で宴会をする時に民謡を流していたもので、島での宴会の写真の中でもその存在が確認できます。当時は娯楽があまりなかった時代だったので、蓄音機は大変重宝されたそうです。

現在レコードは二枚残っており、劣化により一部音が飛びますが、今もなお当時の民謡を奏でています。

三平皿



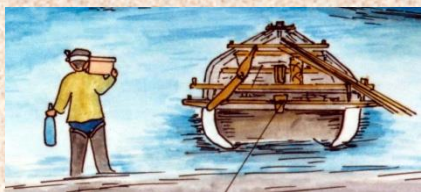
島の人は汁物を飲むときは、お椀ではなくこの三平皿を使ってきました。島から持ってきたときは何枚もあったそうですが、割ってしまったたりしたため、現在はこの二枚だけ残っています。

おひつ



脱出時におにぎりを入れていたおひつです。島の人はコンブ漁に出るときにおひつにお弁当を入れ、水筒もない時代なので一升瓶に飲み水を入れて漁に出ていたそうです。

元島民の故能登与市さんの書いた「故郷の島たらく（四季と生活（くらし）」にもおひつと一升瓶を持つ漁師の姿が描かれています。



「故郷の島たらく（四季と生活（くらし）」昆布漁 能登与市氏・作

蓄音機など（その三）

多楽島出身の福澤 英雄さん

タイをかたどったお盆



景気の良い年には正月などに一家で登別温泉へ湯治に行ったそうです。このお盆は昭和十七年の正月に登別温泉を訪れた時に買ったお土産で、家族と過ごした大切な思い出の品とのこと。

つぼ



ちゃぶ台



小井と茶碗



木箱



お玉と杓子



鯨尺

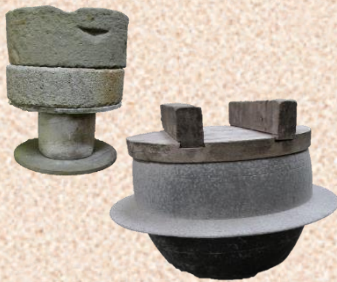
裁縫が得意だったお母さんが使っていたもの。



ろうそく立て



釜と石臼



掛け時計



貯金箱



そろばん

英雄さんがいたずらして玉を二列無くしてしまったそろばん。



【追記】

英雄さん思い出の品々の一部は、根室市北方領土資料館に展示されています。